

どんな風景が好まれていたのか？ 近代の絵葉書から探る鳴門海峡の風景

自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ 大平 和弘



■鳴門海峡のうずしおを世界遺産に

兵庫県淡路島と徳島県の間にある鳴門海峡では、「うずしお」が発生します。ひとはくでは、これを世界遺産に登録して守っていくための調査を進めています。



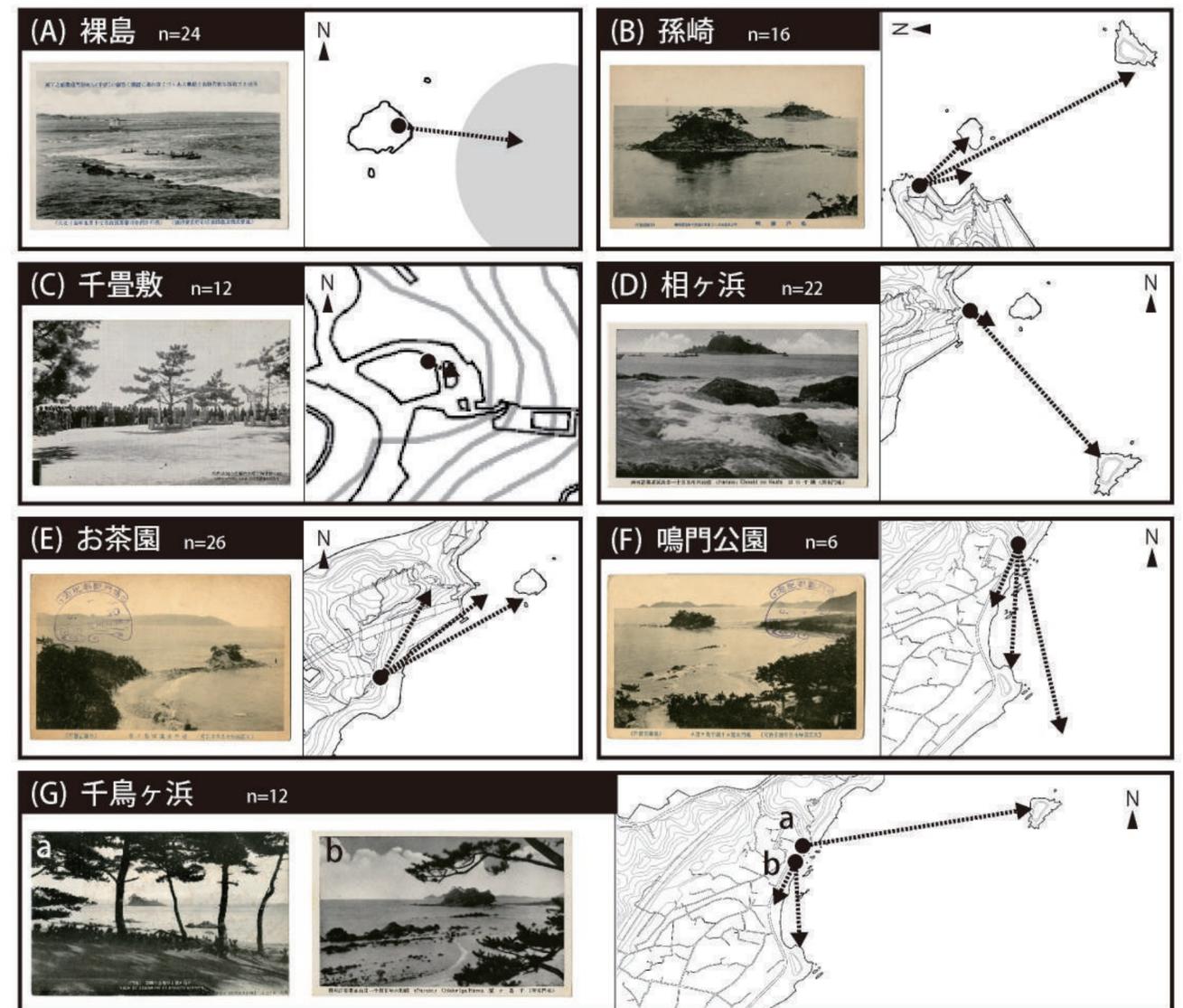
現在の鳴門海峡のうずしお

■絵葉書に映し出された「鳴門海峡」

では、昔の人は鳴門海峡のどんな風景を好んでいたのでしょうか？ 鳴門海峡の見所となっていた風景が撮影された近代の絵葉書（1913～1939年）を160種類集めて、どの場所から何が映し出されていたのかを調べました。

その結果、うずしおを捉えた絵葉書は多くなく、島々と岬や入江が創り出す渚の風景（B・E・F）や岩や黒松ごしの島の風景（D・G）なども好まれていたことがわかりました。

これらの風景は、鳴門海峡の美しさを語る上で無くてはならないものであると考えられます。



各エリアを代表する絵葉書と鑑賞すべき対象

矢印で示す対象は、そのエリアの特徴として統計的に有意な関係性が示された対象を示す。絵葉書はいずれも人と自然の博物館蔵。